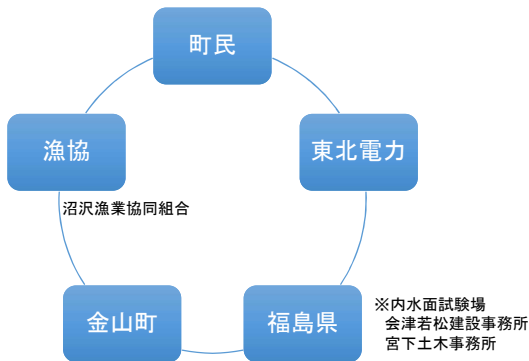


沼沢湖のヒメマスを考える会

沼沢湖のヒメマスは、大正4年に放流されてから今日まで愛されてきた魚です。この金山町の特産である、沼沢湖のヒメマスを保護し活用することで、地域活性化につなげる事を目的とした会として平成28年9月20日に発足しました。

1 組織



組織の構成員は、地域の住民、漁協、その他関係機関が一体となり取り組みを進めます。

2 事業

- ヒメマスの保護・増殖に関する調査、環境整備
個体数の調査、産卵環境の調査などを行いヒメマスの生態系を調べます。産卵、心化をする前ノ沢の整備を行います。
- 地域活性化のためのヒメマスの利活用の検討
現在、ヒメマスの漁は後継者がなく行われていません。釣りのみの漁獲となっており流通が困難な状況です。今後、漁法や流通などの検討を行います。
- その他
利活用の達成のために必要な事業を行います。

3 環境整備

前ノ沢は沼沢湖に注いでいる唯一の川で、ヒメマスが遡上し産卵するために重要な河川です。ヒメマスが産卵しやすいように環境整備をします。



伐木、伐採



魚道設置



河床の改善



放流

- 活動は年2回、放流前の4月と産卵前の9月頃に実施します。
- 伐木、伐採を行いヒメマスに触れ合える環境を確保します。
- 途中にある落差をヒメマスが遡上できるように魚道を設置します。
- ヒメマスが産卵しやすいように、河床に砂を敷きます。
- 人口心化させた稚魚を放流し、自然心化で不足する稚魚を補います。

環境整備を行いました！



漁協、金山町、内水面試験場、宮下土木

・除草・伐採

大きくなった柳の木を伐採しました。



・掘削・玉砂利敷き



ヒメマスは、柔らかい河床を20~30cm掘って卵を産むため、柔らかい河床が必要です。固くなった河床をほぐしています。



産卵しやすい河床とするため玉砂利を敷きました。



整備前は固くて、砂利が無く、産卵出来ない状況。



綺麗に玉砂利が敷き詰められた状況。

・新しい河床をヒメマスが遡上しています



YouTubeで「沼沢湖のヒメマス遡上」で検索すると動画が見られます。

ヒメマス (姫鱒、*Oncorhynchus nerka*)



ヒメマスというのは、降海型のベニザケが湖で一生活を過ごすようになったものです。

北大平洋に広く分布しているベニザケは、夏から秋にかけて上流に湖のある河川に遡上して湖に入り、さらにその流入河川をさかのぼって産卵します。冬の間生まれた稚魚は春に湖へ下り、そこで通常1年から2年間、時にはもっと長く生活した後に海へ下ります。ところが、その中に海へ下らず、終生淡水の湖で成長し、成熟して世代を繰り返すものが出現したのです。これがヒメマスで、降海魚のベニザケに比べ、小型であるほかは、まったくベニザケと同じです。

沼沢湖のヒメマスは大正4年に十和田湖から十万粒の卵を購入したのが最初でした。昭和の初期頃は漁獲量も多く年間で400万粒近くを採卵し、他県へも販売していました。現在は漁獲量も減り、沼沢湖で採れる卵では不足することから、他から買った卵もふ化させて放流しています。

ヒメマスの一生



沼沢湖のヒメマスに関する動画リンク



沼沢湖の小学生によるヒメマス放流体験

YouTube検索
「沼沢湖 ヒメマス」

<https://www.youtube.com/watch?v=ewmZq77y2qU>



沼沢湖のヒメマス採卵作業

YouTube検索
「沼沢湖 ヒメマス」

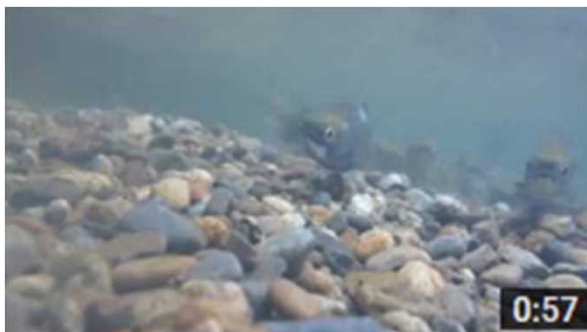
<https://www.youtube.com/watch?v=PfbvTdXAOFM>



沼沢湖へそそぐ前の沢へのヒメマス遡上の水中動画 横アングル

YouTube検索
「沼沢湖 ヒメマス 遡上」

<https://www.youtube.com/watch?v=ZUP9LnHStjY>



沼沢湖へそそぐ前の沢へのヒメマス遡上の水中動画 正面アングル

YouTube検索
「沼沢湖 ヒメマス 遡上」

<https://www.youtube.com/watch?v=DrZsFDgodKc>